

4月23日（月） 創立記念日

水海道第一高等学校は、明治33（1900）年に創立され、今年で創立119年目を数えます。19世紀の最後の創立であり、本校の歴史は19、20、21世紀と実に3世紀にまたがります。

創立の年は、日清戦争（1894）、日露戦争（1904）という2つの戦争にはさまれ、近代国家へ移行しようとする日本にとって、有為の人を育成することが、急がれていた時代でした。

明治33年4月より

茨城県中学校	→	茨城県水戸中学校（改称）
同		同 太田分校（新設）
同 土浦分校	→	茨城県土浦中学校（改称）
同		同 龍ヶ崎分校（新設）
同 下妻分校	→	茨城県下妻中学校（改称）
		同 水海道分校（新設）

（創立百周年記念誌『済美百年』p36「第1章 明治期」

明治33年3月8日 文部大臣樺山資紀 の告示文より）

県西地方はかなり広範囲ですが、なぜこの水海道に中学校が設置されたのでしょうか。鬼怒川を上り下りする船が集まったため、水運による財力があり、それが中学校を設置するために使われたと言います。しかしそれよりもさらに大きな要因は、学校用地を提供し、この地方にぜひ中学校をと切望する地域の人々の情熱でした。

水海道町からの学校敷地の寄付は、おそらく水海道町が本校を誘致する際の条件だったのであろう。水海道町はこの経費（土地代と家屋取扱い代）1899円余を臨時費として計上し、公債1700円を起債している。町の年間経常費総額が5079円余であったことを考えれば、相当の負担であったことが想像される。（創立百周年記念誌『済美百年』p46「第1章 明治期」より）

時を超えた今、学校創立時の期待と情熱に思いを巡らし、自らの目標を実現するための「立志」の日として、創立記念の日の意味をとらえ直してみてください。



↑ 水海道一高 旧講堂

設計者は、駒杵勤治（山形県新庄市出身）。東大卒業後に茨城県技師となり、海一、太田一、土浦一、水戸商などの建物を次々と設計した。なお、海一の講堂は明治37（1904）年竣工。

第一回入学試験

明治三十三年（一九〇〇）四月一日「茨城県下妻中学校水海道分校」が開校した。（中略）一三・一四日の二日間にわたって、水海道町高等小学校を会場に入学試験が行われた。試験科目は第一日が読書と作文、第二日が習字と算術であった。一九日に合格発表があり、志願者一六四名中一二〇名が入学を許可された。（『済美百年』より）

倍率は、一・三七倍。入試科目は、現代とはまったく違います。江戸時代の「読み・書き・そろばん」が、まだ息づいているようです。